



日音だより

令和4年度 3月号
日本音楽学校幼稚園
園長 関 幸治

【卒業公演のサプライズ】

2月4日（土）の卒業公演、ばら組の子どもたちのおかげで「幼児教育コース」の発表が無事終わりました。子どもたちは大きな舞台上で堂々と、お姉さんたちと一緒に踊ることができました。会場の皆さんから、大きな拍手をいただきました。退場の際、舞台の下から「お姉さん、卒業おめでとうございます。これからも頑張ってください。」と子どもたちが声を掛けました。お姉さんたちは一瞬きょとんとしていましたが、会場からの拍手で笑顔になり、子どもたちに手を振ってくれました。練習にはなかったの、きっと驚いたことでしょう。子どもたちの声で、希望に胸を膨らませたと思います。



【いろいろありました】

2月13日（月）、「買い物ごっこ」を行いました。すみれ組、ばら組は遊戯室がパン屋さんになり買い物をしました。幹事の皆さんが店員に扮装し、本物のパン屋さんのような様子でした。お金は子どもたちの手作りでしたが、何をかうのか真剣な目つきでした。まつ組は、5号館の講師控室で、本物のパン屋さんからパンを買いました。財布からお金を出し、支払いを済ませました。中にはお金が足りないと、財布を逆さにしていた子どももいました。実体験がなかなかできない時節ですが、皆様方のご協力で子どもたちに体験させることができました。



2月15日（水）には、まつ組の子どもたちが宮前小学校に行きました2年生の子どもたちとの交流です。子どもたちが考えたゲームを楽しみました。齋藤校長先生から、並び方や話の聞き方がとても素晴らしいとお褒めの言葉をいただきました。



2月17日（金）は、延期となっていたまつ組のお別れ遠足でした。朝の内は寒かったですが、陽射しが降り注ぎ、絶好の遠足日和となりました。お土産も買い、満足した一日となりました。

めだかは・・・でも

ビオトープのめだかが、寒い冬を越せそうです。氷水の中でも耐え抜きました。めだかの生命力の強さには驚かされました。寒さが緩んだ日に、ビオトープをのぞいていると一人の園児が、「園長先生、めだかは大きくなったら何になるの。」と言いました。私は、「これはめだかという種類だから、大きくなってもめだかだよ、子どものめだかだから、もう少し大きくなるかな。」と答えてしまいました。大失敗です。どうして「何になると思う。」と聞いてあげられ



なかったのか、子どものもつ探求心に考えが及ばなかったのか反省しました。

私の答えでは、「あっ、そうか。」で終わってしまいます。自分から調べてみようとする行動に結びつきません。様々なことに興味をもたせ、発見を楽しむことにつながる大切なのです。

このような失敗を繰り返さぬよう、3月はしっかりやっていきたいと思えます。大切なまとめの時期、気合を入れて頑張ります。



3月 指導のねらい

すみれ組

○大きくなる喜びと、進級に対する期待をもって生活する。

ばら組

○友達とのつながりを感じ、進級する喜びと期待をもつ。

まつ組

○就学することに喜びを感じ、自信をもって行動する。



講師による指導（3月）

器楽指導 渡辺 正明先生 ばら組

英語指導 ジェマ先生 ばら組 すみれ組

安本えつ子先生は、十数年にわたり子どもたちに英語をご指導してくださいました。2月末をもってご退任になりました。安本えつ子先生、長きにわたりありがとうございました。



体育指導 櫻井 由香先生 すみれ組

○お知らせ

- ・「防災訓練」(全学級) 7日(火)に行います。近隣から火災が発生したという想定で行います。荏原消防署の署員の方からご指導をいただきます。
- ・「演奏会」(全学級) 9日(木)に行います。家庭教育学級の一環ですが、子どもたちも一緒に鑑賞します。日本音楽高等学校の先生方の演奏会です。

日音の二十四節気………弥生(やよい)………

弥生は、暖かくなっていく気候に、芽吹く命の様子から来ています。「草木がいよいよ生い茂る日」という意味の、「木草(きくさ)弥(い)や生(お)ひ茂る月」が縮まったもので、草木が「いよいよ茂る」「弥生(いやおい)」が変化して(やよい)となりました。

3月には、過ぎていく春を惜しんで「春惜月(はるおしみづき)」という呼び方もあるそうです。

はいちづ
啓蟄(6日)…寒さが緩んで春の陽気に土の中で冬ごもっていた生き物たちが目覚める頃

しゅんぶん
春分(21日)…昼と夜が同じ長さになる日

どこに隠れていたのか、カエルがのそのそと歩いている様子も見受けられます。歩きながら、ちょっと周囲に目を配ってみると、いろいろな発見があるかもしれません。